

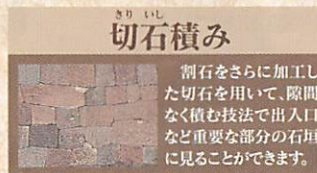
金沢城 石垣巡り

金沢城は「石垣の博物館」。各時代のさまざまな技法、
石たちのささやきに耳を傾けてみませんか。

石垣回廊コース図



主な石積みの技法



石垣めぐりコース

- 城内ルート
①～⑩ 約1.5km
 - 城内外連絡ルート
① 約0.4km
 - 城外周ルート
①～③ 約2.1km
- ※各地点には解説板が設置されています

金沢城の石垣めぐり



① 石川門石垣

この石垣は、右と左で積み方が違います。右側は「切石積み」、左側は「粗加工石積み」となっています。同じ場所でも違う積み方をした珍しい例で、明和2年(1765)の改修時のものと考えられています。



② 内堀石垣(鶴の丸付近)

この内堀は、平成11年から12年にかけて、菱櫓や五十間長屋などとともに復元されました。寛永8年(1631)の大火の後、二の丸を守る堀として造られたといわれています。



③ 菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓石垣

ここから見える三の丸側が「粗加工石積み」、裏手の二の丸側が「切石積み」となっています。「粗加工石積み」の多くは郭の外周などに、「切石積み」は出入口など重要な所によく見られます。



④ 二の丸北面石垣

この付近の石垣は、形や大きさをそろえた粗加工石が積まれています。「粗加工石積み」の中でも、最も完成されたものといわれており、加賀藩の石垣技術者、後藤彦三郎は、「城内でも指折りの石垣」とほめたたえています。



⑤ 土橋門石垣

この石垣は、「切石積み」の技術が用いられ、土橋門の土台になっていました。石垣に組み込まれた六角形の石(亀甲石)は、水に親む亀を表したもので、防火の願いが込められています。



⑥ 数寄屋敷石垣

石積みの技法は、石の表面を長方形に仕上げた「切石積み」で、刻印が見られる石垣は寛文頃の改修時のものです。刻印は石を切り出す時の作業分担などを示すために付けられたともいわれています。×印や田印などの刻印を探してみてください。



⑦ 戌亥櫓石垣

この石垣は、「粗加工石積み」の積み方をしていますが、石の隙間に平らな石をはめ込み、「切石積み」のように見える技法が用いられています。長い年月の間に石が抜け落ちていますが、当時の巧みな技術を見ることができます。



⑧ 三十間長屋石垣

この石垣の積み方は「切石積み」の技法で積まれているのですが、表面の縁取りだけをきれいにそろえ、内側を粗いままにしておく「金場取り残し積み」という技法が用いられています。



⑨ 鉄門石垣

「切石積み」の技法は、城の重要な部分に用いられています。本丸への入り口となるここ鉄門の石垣にも、「切石積み」が見られます。石の表面を多角形に加工したすぐれたデザインで、丁寧な造りになっています。



⑩ 東の丸北面石垣

この石垣は、城内で最も古い技法が用いられており、金沢城の初期の姿を伝える数少ない貴重なものです。自然石や粗削りしただけの石を緩い勾配で積み上げた「自然石積み」になっています。



⑪ 玉泉院丸庭園に面した石垣群

玉泉院丸に面した斜面一帯は、趣向を凝らした「切石積み(色紙短冊積み)」の石垣がみられます。石垣の高さや向き、石の積み方から細部の加工に至るまで、表情豊かな石垣群は、玉泉院丸庭園の重要な景観要素であったと考えられています。



⑫ 玉泉院丸鼠多門周辺の石垣

この付近は玉泉院丸と金谷出丸(現在の尾山神社境内)を結ぶ木橋が架けられていた場所です。河原石を積んで保護し堀の土手の一番くぼんだ箇所が木橋の扶(写真参照)でそこに橋脚が立っていました。石垣は土手の上部に石垣を巡らす「鉢巻き石垣」となっており、鼠多門の通路部分は明治期に積み足されています。

鼠多門と木橋(金沢大学附属図書館蔵)



⑬ 大手堀の石垣

堀際にある粗削り石を積み上げた石垣は、金沢城初期(慶長)の石垣です。この頃、尾坂から河北坂を経由して本丸へ至る大手筋の要所が石垣で固められました。上段の石垣は尾坂門台の石垣で、大きな石を組み込む手法に特徴があります。寛政11年(1799)の地震で崩れ、翌年修築されました。

江戸後期の尾坂門と大手堀(横山隆昭蔵)



⑭ 東の丸東面の石垣

背後に見える東の丸の石垣は、金沢城で本格的な石垣造りが始まった文禄元年(1592)に造られた城内最古の高石垣です。最上段の6m分は小段をつけて積み上げているものの、石垣の総高は21mに達し、文禄期の石垣としては日本有数の規模を誇る野面積み石垣です。